

2003年11月4日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 9

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

-----

秋晴れが続く今日この頃、多少寒くなっはきました、毎日が行楽日和ですね。でも、仕事  
が忙しくてそんな暇は・・・という方は、秋の夜長にちょっと地域福祉メールマガジンでも読んで、  
読書（読メール？）の秋を満喫してみてはいかがでしょうか。

## 目次

### 市町村情報

福祉のまちづくり専門アドバイザーを利用した地域福祉計画策定について

長洲町 ～ 6つのテーマでワークショップを開始～

植木町 ～ 町民とプロジェクトメンバーの協働に向けて～

### トピックス

第1回福祉シンポジウム「いのち輝け！高齢者介護の現場から発言」  
が開催されました

### 市町村情報

福祉のまちづくり専門アドバイザーを利用した地域福祉計画策定について

長洲町 ~ 6つのテーマでワークショップを開始 ~

植木町 ~ 町民とプロジェクトメンバーの協働に向けて ~

県では本年度の新規事業として、地域住民の参加による福祉のまちづくりを推進する市町村に対して“福祉のまちづくり専門アドバイザー”を派遣する事業を実施しています。地域振興局を通じて推薦のあった次の5市町に対して、10月から派遣を開始しています。

各市町の希望に基づいて、年度末までにそれぞれ2~4回程度のアドバイザーの派遣を予定しており、実施地域ではワークショップ、座談会、フォーラム等に取り組む中で、行政と住民の協働による地域福祉の仕組みづくりや地域福祉計画の策定が進められることになっています。事業枠にもう少し余裕がありますので、年度後半に事業展開を考えておられる市町村がありましたら、早めに福祉のまちづくり課までご連絡ください。

アドバイザーを利用した地域福祉計画の策定状況については、順次お伝えしていく予定です。

【アドバイザー 派遣地域】

- (玉名) 長洲町
- (鹿本) 鹿本町、植木町
- (上益城) 益城町
- (天草) 本渡市

長洲町

~ 6つのテーマでワークショップを開始 ~

郡市一体での合併を目指している玉名地域の中で、長洲町は唯一、合併前の15年度内に地域福祉計画の策定を目指しています。特に、町の地域福祉計画と町社協の地域福祉活動計画を並行して策定する予定であることから、両方の計画策定に向けて町と町社協が共同で取り組みを始めています。

既に、9月までに地域懇談会を5箇所で開催し(出席者延べ200人)また、住民へのアンケート調査を実施するなどの基本作業を実施しており、10月から11月にかけて「地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定に伴う検討委員会」をワークショップ方式で4回行い、その結果をもとに、12月以降に開催する地域福祉計画策定協議会で、最終的な計画の検討ととりまとめを行うことにしています。

10月15日(水)と24日(金)に町役場で開かれた検討委員会では、町内で活動している福祉団体や福祉施設、学校の関係者、区長、ボランティアや地区社協の代表、町役場と社協の職員など50名の委員がテーマ別に6班(高齢者、障害者、子育て、まちづくり、介護、ボランティア)

に分かれて、ワークショップによる課題の整理、解決策の検討を行いました。

県からは専門アドバイザーとして、(有)トトハウス取締役 前田芳男氏 を検討委員会に派遣したところであり、11月に予定されている2回の検討委員会でも、引き続きワークショップの運営を支援していくことにしています。

## 植木町

### ～町民とプロジェクトメンバーの協働に向けて～

鹿本地域では、山鹿市が14年度に地域福祉計画の策定を済ませていることから、他の5町でも15年度に地域福祉計画を策定する予定で準備が検討されています。

中でも植木町は、山鹿市が取り組んだ住民参画の手法を参考に、今後、11月21日に幅広い町民を対象としたイベント(フォーラム)を開催し、その成果をもとに、12月以降に、町民とプロジェクトメンバーによる3班構成の住民部会をワークショップ方式で5回開催し、計画の内容を形作る予定です。その後、3回程度の全体会議の開催等を経て、年度内に計画策定を完了することになっています。

10月17日(金)には、第1回庁内プロジェクトチーム会議が町役場で開かれ、関係課の係長など12名のメンバーに対して、計画の必要性や策定の進め方について、県のアドバイザーとして派遣された九州看護福祉大学助教授 和田 要 氏から指導及び研修が行われました。

今後のワークショップに当たっては、プロジェクトチームのメンバーも4名ずつ各班に分かれて、1住民としての立場で協議に参加することになっています。

## トピックス

第1回福祉シンポジウム「いのち輝け！高齢者介護の現場から発言」  
が開催されました

10月4日、玉名市民会館大ホールにて、これからの高齢者介護を語る会実行委員会(代表：特別養護老人ホーム慈幸苑 松崎幸子施設長)主催の第1回福祉シンポジウム「いのち輝け！高齢者介護の現場から発信」が開催されました。

パネルディスカッションでは「私たちの目指す高齢者介護施設」～慈幸苑の取り組みから 抑制廃止、オムツ外し、ユニットケア、夜間入浴の実践～と題して、5人のシンポジストが熱い思いを語られました。

全国老人福祉施設協議会の久藤妙子副会長は、「老施協でもオムツ外しは緊急課題であり、これ

からはオムツを入所者の30%以上がしている施設は、老施協としては“ブーイング”していくなどの対応が必要。しかし、オムツゼロはなかなか難しい。オムツをしていないと人としての尊厳が保たれ、自信にもつながる。高齢者の風呂・食事・排泄における決定権（自己決定権）を認めることが大切。いかに人の尊厳が問われるかということ。」と、入所施設のオムツ外しの必要性を語られました。

慈幸苑の宮本副施設長は、慈幸苑の取り組みについて、「私が入ってもいい、私の親を入れてもいいと思える施設を目指している。お年寄りの『今』を大切にしたいと思っており、利用者全員のオムツ外しを行っている。その他、精神レベルに応じたユニットケア、週3回の夜間入浴、苑での様々なイベントと外出など、利用者が生きていて良かったと思える一日一日を提供したい。また、厚生労働省は在宅の方向を向いているが、特養だって、中間施設であっていいと思っている。お年寄りにとって何が一番幸せかを考えたい。」とのことでした。

このような取り組みについて、利用者の家族である寺本さんから報告がなされました。寺本さんのご主人は昨年4月に倒れ、脳梗塞等で危篤状態となり、命は助かりましたが、左半身が麻痺し、介護状態となりました。病院に10ヶ月入院し、寝たきりにオムツ状態であり、それを見て涙するばかりの状態です。慈幸苑に入所。ご主人は最初こそ「介護をしたくないからホームに入れるんだろう」と反発されましたが、スタッフは優しく、オムツはずしや日中の活動、夜間入浴等、ご主人も満足の様子。病院ではご主人に怒られない日はなかったが、「ここでは何も怒ることはなか」と言われ、やっと自分にも時間的ゆとりができたとのこと。思いやり、優しさ、感謝が必要。私も、趣味など残された人生を楽しく生きていきたい、と前向きな日々を送っておられるようでした。

阿蘇町での取り組みについては、介護保険系の橋本係長より報告がありました。

「介護保険制度は在宅中心であるが、限度額と時間帯の制限があることから、地域の役割・地域支え合いが重要となります。阿蘇町では、H12から地域ボランティアがひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦を、年間19,000件訪問しています。町の活動補助が若干あるものの住民による企画であり、活動内容は様々です。こういったベースがあってこそ、介護保険制度が機能するのではないのでしょうか。阿蘇町では施設を希望する人が多く、本当に利用したい人が利用できない状態。地域で暮らせる方は地域で暮らしていただくため、施設に在宅支援拠点の役割を担ってもらえば、施設の役割は無限大に広がるのでは。地域サテライトケアとして、これまでの人間関係を継続し、住み慣れた地域で暮らすことができます。」とのこと。

県の取り組みと現状については、以下のとおり健康福祉部森枝次長が発表しました。

「本県の高齢化率は22.4%であり、全国の7年先をいっており、全国より先のことを考えないといけない。措置から契約へ、ケアモデルの転換が必要。慈幸苑は新しい状態でスタートされ、新しいモデルである。オムツ外し等はケアの基本。しかし、ケアされる方から見れば当たり前のことなのかもしれない。ユニットケアは（あくまで）方法。家庭的なケアを。スタッフが、自分が入ってもいい、自分の親を入れてもいいと思うかどうかである。

第3の категорияは、グループホーム、小規模多機能。自宅の感覚に近い。長野県真田町、宮城県

のせんだんの杜などの例があり、今後必要になってくるものと思われる。また、地域支え合いの例として、菊陽町のキャロットサービス、玉東町のはぶの等がある。

行政が縦割りにならないよう、利用者にとってより良い状態でありたい。」とまとめました。

その後、「人間の尊厳と福祉の心」とのテーマで臨済宗相国寺派有馬頼底管長（金閣銀閣寺住職兼務）と、ニュースキャスター筑紫哲也氏との対談が行われ、急速な高齢化、スローライフ、多神教と一神教、京都の街並み保全を中心とした日本文化、環境保全などの話があり、まさに「多事争論」でした。ここで有馬管長が、福祉とは、人がお互いに認め合うことであり、人の尊厳は、人が人として当たり前で生きることであり、何らかのハンデを背負っていても同じ人間。括っておく、閉じこめるなんてとんでもない。と、筑紫氏が「みんな同じでないといけない」という考え方は、不幸である。と福祉の心について統括されました。

#### 熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 9

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

-----  
記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: fukusimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL: 096-383-1185

FAX: 096-387-5992